楽しんで学ぶ

平成19年度『いいやまウィークエンド教室』終了

「かえるの学校」
日常見ることのできない動植物の観察を行うことができました

週末を利用して子どもが様々な体験をする恒例の『いいやまウィークエンド教室』が12月8日（土）を最後に今年度の事業を全て終了しました。

今年度は前期3教室、後期3教室の合計6教室を開催し、たくさんの参加者を迎えることができました。

参加された皆さんは、楽しみながら様々な体験や交流をおこない、その中から多くの事を学んでいただけたと思います。

総合学習センターでは、来年度も多くの教室を企画して皆様の参加をお待ちしております。ご期待ください。

○かえるの学校

外様公民館との共催で、6月10日（日）に開催しました。多くの皆さんが参加され、「黒岩山」桂池周辺で日常見ることのできない動植物の観察を行いました。

参加した子どもたちは、モリアオガエルや木の枝の卵を見つけては興味深そうに見入っていました。子どもや保護者にとって、実際に山に入って動植物を観察する貴重な機会となりました。

モリアオガエル

○たのしいキッズ英語

6月23日（土）から各土曜日の計4回、国際交流員ジョアン・レストレンジ・ウエスト先生を講師にお迎えし開催。

教室では日常生活や遊びをとおして英語を学ぶことができ、『だるまさんがころんだ』など、特にゲームを行いながら英語を使う場面では、すべての子どもたちが集中して学習することができました。

○レッツ・キッズダンス

7月14日（土）から各土曜日の計4回、高橋祐子先生を講師にお迎えし開催。

今回参加した子どもたちはすべて女子児童で、最初ははずかしそうにしている人もいましたが、先生のかけ声や音楽のリズムにあわせてだんだん体が動くようになり、ダンスの楽しさを感じる良い機会になりました。

○カラーサンドアート

10月20日（土）、美術館職員指導のもと開催。

白い砂に色をつけ、色を組み合わせてビンにつめて綺麗な模様をつくりました。

○秋の野鳥観察会

10月27日（土）、丸山和麻先生を講師にお迎えし開催。

雨天のため室内での講義になってしまいましたが、普段目にする機会の少ない野鳥の映像や生態を学ぶことができました。

○茶道を体験しよう

11月10日（土）12月8日（土）の計2回、表千家 山崎まり子先生をお迎えし開催。

日本の伝統文化である茶道を体験し、あいさつや座り方、お茶の飲み方など作法の基本を学ぶことができました。

悪戦苦闘して制作しましたが、できあがった個性あふれる作品はそれぞれ綺麗な模様を作り出していました。

総合学習センターだより

No.9

平成19年（2007）12月15日発行

発行・編集：総合学習センター

公民館報　NO.619
図書館だより　NO.345

市立飯山図書館
〒389-2253　飯山1421
電話：0269-62-1118
URL：http://tosho.city.iiyama.nagano.jp

美術館
〒389-2253　飯山1436-1
電話/FAX：0269-62-1501
URL：http://muse.city.iiyama.nagano.jp

いいやま女性センター未来
〒389-2253　飯山1431
電話/FAX：0269-62-0543
E-mail：center-mirai@city.iiyama.nagano.jp

飯山市ふるさと館
〒389-2253　飯山1434-1
電話/FAX：0269-67-2030
E-mail：furusato@city.iiyama.nagano.jp

飯山市公民館
〒389-2253　飯山1436-1
電話：0269-62-3342
FAX：0269-62-5940
E-mail：kouminkan@city.iiyama.nagano.jp

飯山公民館　電話：62-3342　FAX：62-5940
秋津公民館　電話/FAX：62-2330
木島公民館　電話/FAX：62-0555
瑞穂公民館　電話/FAX：65-2501
柳原公民館　電話/FAX：62-5562
富倉公民館　電話：67-2136　FAX：67-2211
外様公民館　電話/FAX：62-1029
常盤公民館　電話/FAX：62-3200
太田公民館　電話/FAX：65-4579
岡山公民館　電話：69-2010　FAX：69-1800

飯山雪国大学　子育て公開講座

「子どもの脳に生きる力を」

～体験・経験の重要性～

講師　信州大学教育学部・医学部大学院教授　寺沢宏次　先生

遊びの変化が脳に与える影響と運動の重要性

今から30年ぐらい前に鬼ごっこ・野球・かくれんぼなどの動的な子どもの遊びがテレビ・テレビゲーム・ステレオなどの普及により静的な遊びに変化してきました。時代の変化に伴う子どもたちの遊びの変化がコミュニケーションの不足につながってきてしまいました。

人と人とがふれあうことは病を治したり、癒しの効果があります。子どもたちが鬼ごっこのようなことをしなくなると一つのコミュニティを作らないことになり、癒しの効果も生まれず脳の発達にも影響をあたえます。10歳になれば成人の脳と同じくらいに発達してくるので、人と人とのふれあいの機会により、言語能力を鍛えていく必要があります。

先生の研究から2600万人の小・中・高の子ども達がテレビ・ビデオ・テレビゲーム・音楽CD鑑賞で過ごす時間を調査したら1日約300分（約5時間）となり、この生活を5年間続けるとその時間が1年分に相当することになります。運動とコミュニケーションの不足は骨と筋肉と癒しもぬぐいさっていってしまう。

大人にも同じことが当てはまりますが幼児期の方が運動をさせないと脳は発達していません。

また、先生の研究の成果から、動的な遊びの時間の減少と静的な遊びの増加、また便利なボタン社会になったことによるお手伝いなどの体験の減少が合わさって子どもの判断能力の成長に影響をあたえていることがわかってきました。

便利社会が失ったもの

今の便利社会で人間は楽なものを経験してしまうと後には戻ることがかなり難しくなってくるため、10歳までにいろんな体験をさせる場面を親が意識的に与えていくことが子ども達の脳を発達させるためには重要です。例えば、子どもに自分の手足を使って、山を登ることを自分自身が一緒に登って教えていく必要があります。

今の子ども達はいろいろな情報から、体験はなくてもいろいろな物事については知っていますが、知っているだけで本当には理解できていません。物事のプロセスは経験しなくても、汗なく苦労なく目的を達成してしまっています。脳は決して道のりなくしては発達していきません。このことは、山をエレベーターで登っていくようなものであり、全然感動がわきません。体を使って、汗をかきながら、友と会話しながら登ると頂上にたどり着いた時の感動を味わうことができます。

また、子ども達のキレをなおすためにも五感を使っての体験やお手伝いを意識的に経験させていくことが重要であるということも話されました。

参加者からは、「子育てする上で運動、コミュニケーションが脳の発達にとても重要なことがわかり日々の生活の中に意識して取り入れていきたい。」「先生のいろいろな研究の成果から説得力のあるお話で子どもを持つ親として今後心がけていくべき事をたくさん教えていただきよかった。」などの声がありました。